

2016年5月20日(金)
適応WG主査 矢野(九州大学)

H28年度環境水理部会研究集会 第3セッション「地球温暖化適応」趣旨

昨年度、環境水理部会の新しいWGとして『温暖化適応の環境水理学的視点からの探求WG』を立ち上げた。本WGの設置目的は以下の通りである。

IPCCの第5次報告書に示されたとおり、地球温暖化の進行が確実になっている。そのような状況で、適応策の検討が強く求められるようになった。我が国においては、災害への対応が最も関心と呼んでいるが、環境変化に対する適応策の検討も必要になると考えられる。特に流域圏の水環境に関連する適応策の検討や、適応策(緩和策も含む)を適用した場合の水環境への影響評価など課題は数多く存在するものと考えられる。これらの課題抽出を行い、今後の水環境への適応策研究の方向性を議論する場を設けること、ならびに、ファンドの獲得による研究プロジェクト立ち上げなど研究環境を整備する方向も視野に入れた活動を行うことを目的とした。

今後の活動計画は、メンバーの研究報告やアイデアの紹介などを行う勉強会的なものを進めながら情報共有を進め、ワークショップ的な会合を入れながらシンポジウムを開催(水工学委員会に設置された『グローバル気候変動適応研究推進小委員会』と連携することを模索中)できればと考えている。

本セッションでは、WGメンバー(メンバーの共同研究グループも含む)からの研究事例紹介を4件(湯浅・矢島・田代・傳田)、ならびにWG外から2件の研究紹介を頂く。内容を見て分かる通り、適応策と直接関連する発表は2件となっている。このことが、(水)環境面の適応策研究の難しさを物語っていると考えられる。すなわち、環境面の適応策として技術的側面やコスト面から可能なものが現段階で多くはないということが示されている。WGにおいても、この部分のブレイクスルーの必要が議論されており、そのヒントを探ることも目的の一つとして、今回の特別セッションを設けた次第である。

この適応WGは極力オープンに実施したいと考えている。本研究集会翌日(5月21日)には、同じ会場で9時から12時までWGが開催されます。参加は自由であるので、適応策研究に興味のある方は奮って参加頂き、そのあるべき方向性を議論頂きたい。